

(様式第 10)

H26 がん研発第 62 号  
平成 26 年 10 月 日

厚生労働大臣

殿

公益財団法人がん研究会有明病院  
公益財団法人がん研究会

開設者名 理事長 草刈 隆良

公益財団法人がん研究会有明病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31
氏 名	公益財団法人がん研究会

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

公益財団法人がん研究会有明病院
-----------------

3 所在の場所

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31	電話 (03)3520-0111
-----------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input checked="" type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 乳腺内科 4 血液内科 5 腫瘍内科 6 感染症内科		
7 漢方内科 8 疼痛緩和内科 9 10 11 12 13		
14		
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科		有	・	無
外科と組み合わせた診療科名				
1呼吸器外科	2 消化器外科	3 乳腺外科	4 整形外科	5 形成外科
6 頭頸部外科	7	8	9	10
11	12	13	14	
診療実績				

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		有	・	無
歯科と組み合わせた診療科名				
1	2	3	4	5
6	7			
歯科の診療体制				

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	700床	700床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年9月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	279人	21.3人	300.3人	看護補助者	82人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	0.5人	6.5人	理学療法士	6人	臨床検査技師	71人
薬 剤 師	62人	0.8人	62.8人	作業療法士	0人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	1人	その他	0人
助 産 師	0人	0人	0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	692人	12.6人	704.6人	臨床工学技士	6人	医療社会事業従事者	6人
准看護師	10人	0人	10人	栄 養 士	2人	その他の技術員	24人
歯科衛生士	5人	0人	5人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	207人
管理栄養士	11人	0人	11人	診療放射線技師	69人	その他の職員	205人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年9月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	12人	眼科専門医	2人
外科専門医	50人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	1人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	人	脳神経外科専門医	0人
皮膚科専門医	人	整形外科専門医	6人
泌尿器科専門医	6人	麻酔科専門医	10人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	2人
		合 計	122人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	589人	0人	589人
1日当たり平均外来患者数	1,620人	47人	1,667人
1日当たり平均調剤数		1704.7 剤	
必要医師数			155人
必要歯科医師数			1人
必要薬剤師数			22人
必要(准)看護師数			349人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯

科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	422.31m <sup>2</sup>	SRC	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 133.16 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	8床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 47.06 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	416.7m <sup>2</sup>	SRC	日立ラボスペクト008, 日立ラボスペクト006, アーキテクトi2000, ルミパルスプレスト, ルミパルスG1200, ラボフレックス3500, コールターDXH, STA-R, US-3100R, FOBIT-WAKO			
細菌検査室	78.25m <sup>2</sup>	SRC	マイクロスキャンWalkAway96, コバスTaqMan48			
病理検査室	378m <sup>2</sup>	SRC	免疫染色装置、FISH解析装置、DISH解析装置、HE自動染色装置、OSNA法による転移診断装置、PCR装置、RT-PCR装置、シークエンサー(Sanger型)など			
病理解剖室	72.25 m <sup>2</sup>	SRC	写真撮影装置、ストライカーなど			
研究室	1519m <sup>2</sup>	SRC	遺伝子解析システム、サーマルサイクラーなど			
講義室	370m <sup>2</sup>	SRC	室数 3室	収容定員 272人		
図書室	161.38m <sup>2</sup>	SRC	室数 1室	蔵書数 22,000冊程度		

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	97.1%	逆紹介率	65.1%
算出根拠 A: 紹介患者の数	11,458人		
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,059人		
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	568人		
D: 初診の患者の数	12,378人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る)	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	8人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	リスク低減両側卵巣卵管切除術(RRSO)	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 BRCA1、BRCA2遺伝子変異が見られる乳がん患者を対象にした卵巣卵管の予防的切除術。 卵巣癌ハイリスク者が卵巣癌に関する不安から解消され、生命予後の改善を期待することができる。			
医療技術名	RET遺伝子診断	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 甲状腺髄様癌症例において、遺伝性か否かを手術前に診断して、患者に適切な術式を選択する。RET遺伝子に変異を認める場合、遺伝性甲状腺髄様癌と診断される。その場合、副腎腫瘍や副甲状腺機能亢進症などその他のMEN2A関連腫瘍についての精査を行い、早期に医療介入を行い生命予後を改善する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	19人	・膿疱性乾癬	0人
・多発性硬化症	0人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	1人	・原発性胆汁性肝硬変	2人
・全身性エリテマトーデス	0人	・重症急性膵炎	0人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	0人
・再生不良性貧血	3人	・混合性結合組織病	6人
・サルコイドーシス	7人	・原発性免疫不全症候群	0人
・筋萎縮性側索硬化症	0人	・特発性間質性肺炎	0人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	1人	・網膜色素変性症	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	7人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	0人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	82人	・神経線維腫症	5人
・大動脈炎症候群	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	0人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	1人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	0人	・ライソゾーム病	0人
・クローン病	9人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	1人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	0人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0人
・後縦靭帯骨化症	1人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	0人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	0人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	0人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線索体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びKlüppel・ドレーガー症候群)	0人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害(PRL分泌異常症、ゴナド トロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TS H分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体 機能低下症)	2人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・
・特定機能病院入院基本料7:1	・
・臨床研修病院入院診療加算(管理型)	・
・救急医療管理加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算50:1	・
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート充実体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・総合評価加算	・
・病棟薬剤業務実施加算	・
・データ提出加算2	・
・特定集中治療室管理料3	・
・緩和ケア病棟入院料	・
・	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
がん性疼痛緩和指導管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅲ)
がん患者指導管理料1	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
がん患者指導管理料2	運動器リハビリテーション料(Ⅱ)
がん患者指導管理料3	呼吸器リハビリテーション料(Ⅱ)
外来緩和ケア管理料	がん患者リハビリテーション料
夜間休日救急搬送医学管理料	集団コミュニケーション療法料
外来リハビリテーション診療料	歯科口腔リハビリテーション料2
外来放射線照射診療料	処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
ニコチン依存症管理料	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
がん治療連携計画策定料	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
がん治療連携管理料	乳がんセンチネルリンパ節加算1、2
薬剤管理指導料	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
医療機器安全管理料1	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
医療機器安全管理料2	腹腔鏡下肝切除術
歯科治療総合医療管理料	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
検体検査管理加算(Ⅰ)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術
検体検査管理加算(Ⅳ)	腹腔鏡下小切開副腎摘出術
ロービジョン検査判断料	腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
画像診断管理加算1	人工尿道括約筋植込・置換術
画像診断管理加算2	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
CT撮影及びMRI撮影	医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	手術の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
外来化学療法加算1	胃瘻造設術
無菌製剤処理料	輸血管理料Ⅱ



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・HPV核酸検出	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年12回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 11 例 / 剖検率 2.40%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
別紙参照					

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がん治療のための革新的新技術の開発及び臨床応用に関する総合的な研究	佐野 武	消化器外科	1,800,000	補	厚生労働省
胃がんに対するリンパ節郭清を伴う腹腔鏡下手術と開腹手術との比較に関する多施設共同ランダム化比較試験	佐野 武	消化器外科	200,000	補	厚生労働省
消化管悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	佐野 武	消化器外科	600,000	補	厚生労働省
進行胃がんの集学的治療の研究	佐野 武	消化器外科	600,000	補	厚生労働省
食道癌生検のmicroRNA発見による化学療法感受性予測に基づく個別化治療の確立	渡邊 雅之	消化器外科	1,776,666	補	文部科学省
大腸癌におけるmicroRNAを介した偽遺伝子による遺伝子制御機構の解明の解析	渡邊 雅之	消化器外科	1,560,000	補	文部科学省
TRC法を用いた血中遊離大腸癌細胞の検出とその抗癌剤感受性マーカーとしての意義	渡邊 雅之	消化器外科	1,820,000	補	文部科学省
大腸癌に対する新しいエビジェネティックセラピーの開発	渡邊 雅之	消化器外科	1,690,000	補	文部科学省
胃癌におけるLINE-1メチル化レベルの網羅的解析	渡邊 雅之	消化器外科	1,776,666	補	文部科学省
大腸癌進展に関与する新規遺伝子の機能解析および臨床応用への試み	長山 聡	消化器外科	1,430,000	補	文部科学省
肝胆臓がんに対する低侵襲外科治療の確立	齋浦 明夫	消化器外科	700,000	補	国立がん研究センター
大腸癌肝転移に対する術中造影超音波	有田 淳一	消化器外科	1,500,000	補	三井生命厚生事業団
治療標的となる新規融合型キナーゼの同定及び乳がんのTKI感受性・耐性を規定する分子機構の解明におけるCTC解析	伊藤 良則	乳腺内科	1,000,000	補	文部科学省
外来通院治療室の現状解析と問題点の抽出	伊藤 良則	乳腺内科	800,000	補	厚生労働省
HER2陽性乳癌における分子標的治療薬に対する新たな効果予測因子の同定と新規治療法の開発	荒木 和浩	乳腺内科	2,000,000	補	武田科学振興財団
下咽頭頭部食道がんに対する縦隔手術—頭頸部下方領域進展例に対する手術方法の検討	川端 一嘉	頭頸科	500,000	補	厚生労働省
融合治療診断研究プログラム	川端 一嘉	頭頸科	100,000	補	放射線医学総合研究所
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	松本 誠一	整形外科	240,000	補	厚生労働省
機能温存のための精密縮小手術と至適補助療法の開発、品質および標準化に向けた基盤的研究	下地 尚	整形外科	500,000	補	国立がん研究センター
呼吸移動に伴う胸部病変に対する先進的強度変調回転照射に関する研究	橋本 成世	放射線治療部	390,000	補	厚生労働省
プラスチックシンチレータを用いた4次元線量分布測定器の開発	橋本 成世	放射線治療部	143,000	補	文部科学省
放射線治療を含む標準治療確立のための研究	小口 正彦	放射線治療部	100,000	補	厚生労働省
頭頸部腫瘍に対する強度変調放射線治療の確立と標準化のための臨床研究	小口 正彦	放射線治療部	400,000	補	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
放射線治療期間短縮による治療法の有効性と安全性に関する研究	小口 正彦	放射線治療部	400,000	補	厚生労働省
がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	小塚 拓洋	放射線治療部	250,000	補	厚生労働省
小細胞癌の層別化の試み-発生起源の再検討と発癌機構に注目して	石川 雄一	病理部	1,100,000	補	日本学術振興会
光機能性有機蛍光プローブによる微小癌、微傷転移の検出-肺癌を中心に	石川 雄一	病理部	1,500,000	補	日本学術振興会
上皮成長因子受容体変異肺癌に対するゲフィチニブ治療による肺線維症発症	石川 雄一	病理部	800,000	補	日本学術振興会
放射線2次癌の研究	石川 雄一	病理部	1,000,000	補	厚生労働省
「がん専門医療施設を活用したがん診療の標準化に関する共同研究」班(木下班) / 「肺の神経内分泌がんに対する診断・治療フォローアップの標準化に関する研究」班(永井小班)	石川 雄一	病理部	1,500,000	補	厚生労働省
腫瘍組織における遺伝子の構造及び発現の相違に関する調査業務	石川 雄一	病理部	6,200,000	委	環境省
がん遺伝子の臨床病理学的解析	石川 雄一	病理部	1,000,000	補	科学技術振興機構
光機能性プローブによるin vivo微小癌の検出プロジェクト	石川 雄一	病理部	10,000,000	補	科学技術振興機構
細胞老化が引き起こす恒常性破綻の病態解明とその制御	石川 雄一	病理部	4,750,000	補	科学技術振興機構
肺癌の遺伝子型別および原因別の増殖・分化シグナルパスウェイ	石川 雄一	病理部	4,000,000	補	喫煙科学研究財団
病理形態学的支援	神田 浩明	病理部	1,700,000	補	日本学術振興会
神経内分泌腫瘍の系統的総合的解析-疾患概念の整理と診断基準確立	元井 紀子	病理部	1,100,000	補	日本学術振興会
肺癌の組織多様性をもたらすエピジェネティック機構の解明	元井 紀子	病理部	2,000,000	補	喫煙科学研究財団
ハイリスクHPVの関与する咽頭がんの特徴	古田 玲子	病理部	1,600,000	補	日本学術振興会
液状標本を用いた唾液腺癌の診断および予後因子の検討	佐藤 由紀子	病理部	1,500,000	補	日本学術振興会
病理組織学的アプローチによるtargetableながん遺伝子の新規同定	竹内 賢吾	病理部	13,700,000	補	日本学術振興会
臨床検体における診断法開発	竹内 賢吾	病理部	3,000,000	補	厚生労働省
治療標的となる新規融合型キナーゼの同定	竹内 賢吾	病理部	22,727,000	補	文部科学省
形態形成シグナル活性はstage II 大腸癌予後予測のマーカーとなるか?	秋吉 高志	消化器外科	2,860,000	補	文部科学省
未分化型早期胃癌に対する内視鏡切除の有効性及び安全性に関する多施設共同研究	山本 頼正	消化器内科	1,000,000	補	厚生労働省
肺癌に対する術後再発予防のための2方向性新規ペプチドワクチン療法の開発	石井 浩	消化器内科	4,000,000	補	厚生労働省
我が国で新しく発明された概念に基づく抗がん剤アルクテゲニン臨床第II相試験による肺癌がん克	石井 浩	消化器内科	5,000,000	補	厚生労働省
トラスツズマブ併用化学療法を受けたHER2陽性胃癌の予後因子・予測因子および耐性機序の検討	篠崎 英司	消化器内科	200,000	補	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
末梢循環癌細胞のKRAS遺伝子測定によるEGFR抗体薬の効果測定	松阪 諭	消化器内科	1,040,000	補 文部科学省
小細胞肺がんの層別化の試みー発生源の再検討と発がん機構に注目してー	西尾 誠人	呼吸器内科	1,430,000	補 文部科学省
進行肺癌に対する化学療法	西尾 誠人	呼吸器内科	400,000	補 厚生労働省
RET 融合遺伝子陽性の進行非小細胞肺癌に対する新規治療法の確立に関する研究	西尾 誠人	呼吸器内科	1,500,000	補 厚生労働省
再発小細胞肺癌に対する標準的治療法の確立に関する研究	西尾 誠人	呼吸器内科	800,000	補 厚生労働省
進展型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射の実施の有無を比較するランダム化比較第Ⅲ相試験	西尾 誠人	呼吸器内科	500,000	補 厚生労働省
高脂肪・高カロリー食による泌尿器癌の進展の分子機構の解明と治療標的分子の同定	湯浅 健	泌尿器科	260,000	補 文部科学省
腎細胞がんにおける新しい分子標的治療およびバイオマーカーの開発	湯浅 健	泌尿器科	1,950,000	補 文部科学省
外来化学療法におけるチーム医療の整備と検証に関する研究	高橋 俊二	総合腫瘍科	1,700,000	補 厚生労働省
国立がん研究センターPhase I センター早期開発研究研究事業 2.TAS102医師主導治験実施	高橋 俊二	総合腫瘍科	3,000,000	補 厚生労働省
SDF-1/CXCR4シグナルを標的とした乳癌骨転移に対する新規治療法の開発	小林 隆之	総合腫瘍科	1,820,000	補 文部科学省
経血管治療IVRに関する研究	松枝 清	画像診断部	1,000,000	補 厚生労働省
がん臨床試験についての患者の理解度評価に関する研究	宋 奈緒子	看護部	338,000	補 厚生労働省

計 13  
合計 61



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙参照			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

社

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	S.Matsumoto	整形外科	Current and future aspects of the Japanese medical system in the treatment of musculoskeletal tumors	Journal of Orthopaedic Science 2013 Jul;18(4):505-8.
2	Hiki N, Nunobe S, Kubota T, Jiang X	消化器外科	Function-preserving gastrectomy for early gastric cancer	Annals of Surgical Oncology 2013 Aug;20(8):2683-92
3	Yokoyama M, Terui Y, Takeuchi K, Nara E, Nakano K, Ueda K, Nishimura N, Mishima Y, Sakajiri S, Tsuyama N,	血液腫瘍科、病理部	Infusion Rate Escalation Study of Rituximab in Patients with CD20+ B-Cell Lymphomas: A Single Institution Analysis in Japan.	ISRN Oncol. 2013 Apr 3;2013:863909.
4	Takeuchi K	病理部	Interpretation of Anti-ALK Immunohistochemistry Results	Journal of Thoracic Oncology, 2013 Jul;8(7):e67-8.
5	Nagasue Y, Akiyoshi T, Ueno M, Fukunaga Y, Nagayama S, Fujimoto Y, Konishi T, Nagasaki T, Nagata J, Mukai T, Ikeda A, Ono R,	消化器外科	Laparoscopic versus open multivisceral resection for primary colorectal cancer: comparison of perioperative outcomes.	Journal of Gastrointestinal Surgery. 2013 Jul;17(7):1299-305
6	Matoda M, Tanigawa T, Omatsu K, Ushioda N, Yamamoto A, Okamoto S, Kawamata Y, Kato K, Umayahara K,	婦人科	Platinum-free Interval in Second-line Chemotherapy for Recurrent Cervical Cancer.	International Journal of Gynecological Cancer. 2013 Nov;23(9):1670-4.
7	Takanori Suganuma, Junko Fujisaki, Toshiaki Hirasawa, Akiyoshi Ishiyama, Yorimasa Yamamoto, Tomohiro	消化器内科	Primary amelanotic malignant melanoma of the small intestine diagnosed by esophagogastroduodenoscopy before surgical resection	Clinical Journal of Gastroenterology 2013 Jun;6(3), 211-216
8	Mine S, Sano T, Hiki N, Yamada K, Kosuga T, Nunobe S, Yamaguchi T.	消化器外科	Proximal margin length with transhiatal gastrectomy for Siewert type II and III adenocarcinomas of the oesophagogastric junction.	British Journal of Surgery. 2013 Jul;100(8):1050-4
9	Sawaizumi M, Imai T, Matsumoto S.	形成外科、整形外科	Recent advances in reconstructive surgery for bone and soft tissue sarcomas.	International Journal of Clinical Oncology 2013 Aug;18(4):566-73.
10	Kato K, Omatsu K, Takeshima N.	婦人科	Secondary debulking surgery in ovarian cancer patients with isolated nodal recurrence located in the region above and behind the renal vein.	Gynecologic Oncology 2013 Jul;130(1):226-8
11	Katsuhiko Hasumi, Yuko Sugiyama*, Kimihiko Sakamoto, Futoshi	細胞診断部、婦人科	Small endometrial carcinoma 10 mm or less in diameter: clinicopathologic and histogenetic study of 131 cases for early detection and treatment	Cancer Medicine, 2013Dec;2(6):872-80.
12	Matsuyama M, Ishii H, Kuraoka K, Yukisawa S, Kasuga A, Ozaka M, Suzuki S, Takano K,	消化器内科	Ultrasound-guided vs endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration for pancreatic cancer diagnosis.	World Journal of Gastroenterology 2013 Apr 21;19(15):2368-73
13	Abe A, Sugiyama Y, Furuta R, Furuta N, Matoda M, Takeshima N	婦人科	Usefulness of intraoperative imprint cytology in ovarian germ cell tumors.	Acta Cytologica. 2013;57(2) :171-6.

14	Osumi H, Matsusaka S, Shinozaki E, Suenaga M, Mingyon M, Saiura A, Ueno M, Mizunuma N, Yamaguchi T.	消化器内科	Acquired drug resistance conferred by a KRAS gene mutation following the administration of cetuximab: a case report.	BMC Research Notes. 2013 Dec 5;6:508.
15	Inoue Y, Kokudo N.	消化器外科	Elastography for hepato-biliary-pancreatic surgery.	Surgery Today. 2013 Nov 30. [Epub ahead of print]
16	Yamamoto S, Fujii Y, Masuda H, Urakami S, Saito K, Kozuka T, Oguchi M, Fukui I, Yonese J.	泌尿器科	Longitudinal change in health-related quality of life after intensity-modulated radiation monotherapy for clinically localized prostate cancer.	Quality of Life Research 2014 Jun;23(5):1641-50
17	Yamamoto S, Kawakami S, Yonese J, Fujii Y, Urakami S, Kitsukawa S, Masuda H, Ishikawa Y, Kozuka T, Oguchi	泌尿器科、放射線治療科	Long-term oncological outcome in men with T3 prostate cancer: radical prostatectomy versus external-beam radiation therapy at a single institution.	International Journal of Clinical Oncology.2013 Dec 19. [Epub ahead of print]
18	Yosuke.fukunaga, Yoshiro Tamegai, Akiko Chino, Masashi Ueno, Satoshi Nagayama, Yoshiya Fujimoto, Tsuyoshi Konishi, Masahiro Igarashi	消化器外科、消化器内科	New Technique of In Bloc Resection of Colorectal Tumor Using Laparoscopy and Endoscopy Cooperatively (Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery - Colorectal)	Diseases of The Colon and Rectum.2014 Feb;57(2)267-71
19	Suenaga M, Mizunuma N, Matsusaka S, Shinozaki E, Ueno M, Yamaguchi T.	消化器内科	Retrospective analysis on the efficacy of bevacizumab with FOLFOX as a first-line treatment in Japanese patients with metastatic colorectal cancer.	Asia-Pacific Journal of Clinical Oncology,2013 Aug 5. doi: 10.1111 Epub ahead of print
20	Nakayama Y, Ito Y, Tanabe M, Takahashi S, Hatake K.	乳腺内科、総合腫瘍科	A combination of aprepitant, palonosetron, and dexamethasone prevents emesis associated with anthracycline-containing regimens for patients with breast cancer. A retrospective study.	Breast Cancer. 2013 May 8. [Epub ahead of print]
21	Horii R, Matuura M, Iwase T, Ito Y, Akiyama F	病理部	Comparison of dual-color in-situ hybridization and fluorescence in-situ hybridization in HER2 gene amplification in breast cancer	Breast Cancer. doi: 10.1007/s12282-012-0436-02013 Jan 12. (Epub ahead of print)
22	Horiuchi Y, Chino A, Matsuo Y, Kishihara T, Uragami N, Fujimoto Y, Ueno M, Tamegai Y, Hoshino E.	消化器内科	Diagnosis of laterally spreading tumors (LST) in the rectum and selection of treatment: Characteristics of each of the subclassifications of LST in the rectum.	Digestive Endoscopy 2013 Nov;25(6):608-14.
23	Toshiki Mukai, Takashi Akiyoshi, Masashi Ueno, Yosuke Fukunaga, Satoshi Nagayama, Yoshiya Fujimoto, Tsuyoshi Konishi, Atsushi Ikeda and Toshiharu Yamaguchi	消化器外科	Laparoscopic total pelvic exenteration with en bloc lateral lymph node dissection after neoadjuvant chemoradiotherapy for advanced primary rectal cancer	Asian Journal of Endoscopic Surgery 2013 ;6(4):314-317

24	Omae M, Fujisaki J, Shimizu T, Igarashi M, Yamamoto N.	消化器内科	Magnifying endoscopy with narrow-band imaging findings in the diagnosis of Barrett's esophageal adenocarcinoma spreading below squamous epithelium.	Digestive Endoscopy 2013 May;25 Suppl 2:162-7.
25	Fukunaga T, Hiki N, Kubota T, Nunobe S, Tokunaga M, Nohara K, Sano T,	消化器外科	Oncologic outcomes of laparoscopy-assisted distal gastrectomy for gastric cancer	Annals of Surgical Oncology 2013 Aug;20(8):2676-82
26	Nishio M, Horai T, Horiike A, Nokihara H, Yamamoto N, Takahashi T, Murakami H, Koizumi F, Nishio K, Yusa W, Koyama N, Tamura T.	呼吸器内科	Phase 1 study of lenvatinib combined with carboplatin and paclitaxel in patients with non-small-cell lung cancer.	British Journal of Cancer 2013;109(3):538-44.
27	Urakami S, Fujii Y, Yamamoto S, Yuasa T, Kitsukawa S, Sakura M, Yano A, Saito K, Masuda H, Yonese J, Fukui I.	泌尿器科	Phase II trial of first-line chemotherapy with gemcitabine, etoposide, and cisplatin for patients with advanced urothelial carcinoma.	Urologic Oncology 2014 Jan;32(1):35.e1-7
28	Hiki N	消化器外科	Present features and future vision of laparoscopy-assisted total gastrectomy (LATG)	Gastric Cancer 2013 Oct;16(4):460-1
29	Araki K, Ito Y, Takahashi S.	乳腺内科、総合腫瘍科	Re: Superiority of denosumab to zoledronic acid for prevention of skeletal-related events: A combined analysis of three pivotal, randomised, phase 3 trials.	European Journal of Cancer. 2013 Jun;49(9):2264-5
30	Omae M, Fujisaki J, Horiuchi Y, Yoshizawa N, Matsuo Y, Kubota M, Suganuma T, Okada K, Ishiyama A, Hirasawa T, Yamamoto Y, Tsuchida T, Hoshino E, Igarashi M	消化器内科	Safety, efficacy, and long-term outcomes for endoscopic submucosal dissection of early esophagogastric junction cancer	Gastric Cancer 2013 Apr;16(2):147-54
31	Kasuga, A., Yamamoto, Y., Fujisaki, J., Okada, K., Omae, M., Ishiyama, A., Hirasawa, T., Chino, A., Tsuchida, T., Hoshino, E., Igarashi, M.	消化器内科	Simultaneous endoscopic submucosal dissection for synchronous double early gastric cancer	Gastric Cancer 2013 Oct;16(4):555-62
32	Fujibuchi T, Matsumoto S, Shimoji T, Ae K, Tanizawa T, Gokita T, Hayakawa K, Motoi N, Mukai H.	整形外科	Cytogenetic study of secondary malignancy in giant cell tumor.	Journal of Orthopaedic Science. 2013 Aug 9. [Epub ahead of print]

33	Kitano M, Sugitani I, Toda K, Ikenaga M, Motoi N, Yamamoto N, Hotomi M, Fujimoto Y, Kawabata K.	頭頸科	Cytopathological review of patients that underwent thyroidectomies based on the diagnosis of papillary thyroid carcinoma by fine needle aspiration cytology but were later found to have benign tumors by histopathology.	Surgery Today. 2013 Jun;43(6):632-7.
34	Ide Y, Ito Y, Takahashi S, Tokudome N, Kobayashi K, Sugihara T, Hattori M, Yokoyama M, Uchiyama A, Inoue K, Sakurai N, Hatake K.	血液腫瘍科	Hepatitis B virus reactivation in adjuvant chemotherapy for breast cancer.	Breast Cancer. 2013 Oct;20(4):367-70.
35	Fujii Y, Yamamoto S, Yonese J, Masuda H, Urakami S, Kitsukawa S, Sakura M, Yuasa T, Kihara K, Fukui I.	泌尿器科	The Processus Vaginalis Transection Method to Prevent Postradical Prostatectomy Inguinal Hernia: Long-term Results.	Urology. 2014 Jan;83(1):247-52.
36	Kuboki Y, Matsusaka S, Minowa S, Shibata H, Suenaga M, Shinozaki E, Mizunuma N, Ueno M, Yamaguchi T, Hatake K.	血液腫瘍科、消化器内科	Circulating tumor cell (CTC) count and epithelial growth factor receptor expression on CTCs as biomarkers for cetuximab efficacy in advanced colorectal cancer.	Anticancer Research. 2013 Sep;33(9):3905-10.
37	Tokunaga M, Sano T, Ohyama S, Hiki N, Fukunaga T, Yamada K, Yamaguchi T.	消化器外科	Clinicopathological characteristics and survival difference between gastric stump carcinoma and primary upper third gastric cancer.	Journal of Gastrointestinal Surgery 2013 ;17(2):313-8
38	Yasuda Y, Yuasa T, Yamamoto S, Urakami S, Ito M, Sukegawa G, Kitsukawa S, Fujii Y, Yonese J, Fukui I.	泌尿器科	Evaluation of the RENAL nephrometry scoring system in adopting nephron-sparing surgery for cT1 renal cancer	Urologia Internationalis 2013;90(2):179-83.
39	Kumagai K, Yamamoto N, Miyashiro I, Tomita Y, Katai H, Tuda H, Kushima R, Kitagawa Y, Takeuchi H, Mukai M, Mano M, Mochizuki H, Kato Y, Matsuura N, Sano T	消化器外科	Multicenter study evaluating the clinical performance of the OSNA assay for the molecular detection of lymph node metastases in gastric cancer patients	Gastric Cancer 2014 Apr;17(2):273-80
40	Yasuda Y, Fujii Y, Yuasa T, Kitsukawa S, Urakami S, Yamamoto S, Yonese J, Takahashi S, Fukui I.	泌尿器科	Possible improvement of survival with use of zoledronic acid in patients with bone metastases from renal cell carcinoma.	International Journal Clinical Oncology. 2013 Oct;18(5):877-83.
41	Kumagai K, Hiki N, Nunobe S, Jiang X, Kubota T, Aikou S, Tanimura S, Sano T, Yamaguchi T.	消化器外科	Potentially fatal complications for elderly patients after laparoscopy-assisted distal gastrectomy	Gastric Cancer doi: 10.1007/s10120-013-0292-4. Epub 2013 Aug 31.

42	Yasuda Y, Saito K, Yuasa T, Kitsukawa S, Urakami S, Yamamoto S, Yonese J, Takahashi S, Fukui I.	泌尿器科	Prognostic impact of pretreatment C-reactive protein for patients with metastatic renal cell carcinoma treated with tyrosine kinase inhibitors.	International Journal Clinical Oncology. 2013 Oct;18(5):884-9.
43	Takemura N, Saiura A, Koga R, Yoshioka R, Yamamoto J, Kokudo N.	消化器外科	Repeat hepatectomy for recurrent liver metastasis from gastric carcinoma.	World Journal Surg. 2013 Nov;37(11):2664-70
44	Kubota T, Hiki N, Sano T, Nomura S, Nunobe S, Kumagai K, Aikou S, Watanabe R, Kosuga T, Yamaguchi T.	消化器外科	Prognostic Significance of Complications after Curative Surgery for Gastric Cancer	Annals of Surgical Oncology 2014 Mar;21(3):891-8.
45	Osako T, Tsuda H, Horii R, Iwase T, Yamauchi H, Yagata H, Tsugawa K, Suzuki K, Kinoshita T, Akiyama F, Nakamura S	病理部	Molecular detection of lymph node metastasis in breast cancer patients treated with preoperative systemic chemotherapy: a prospective multicenter trial using the one-step nucleic acid amplification assay	British Journal Cancer. 2013 Sep 17;109(6):1693-8.
46	Osako T, Takeuchi K, Horii R, Iwase T, Akiyama F	病理部	Secretory carcinoma of the breast and its histopathological mimics: value of markers for differential diagnosis	Histopathology. 2013;Oct;63(4):509-19
47	Osako T, Iwase T, Kimura K, Horii R, Akiyama F	病理部	Detection of occult invasion in ductal carcinoma in situ of the breast with sentinel node metastasis	Cancer Science. 2013 Apr;104(4):453-7
48	Osako T, Iwase T, Kimura K, Horii R, Akiyama F	病理部	Sentinel node tumour burden quantified based on cytokeratin 19 mRNA copy number predicts non-sentinel node metastases in breast cancer: Molecular whole-node analysis of all removed nodes	Eur J Cancer. 49(6):1187-95, 2013
49	Horii R, Akiyama F	病理部	Histological assessment of therapeutic response in breast cancer	Breast Cancer. 2013 Oct 31. (Epub ahead of print)
50	Hidetaka Nomura, Akiko Abe, Akiko Yamamoto, Maki Matoda, Kohei Omatsu, Kazuyoshi Kato, Kenji Umayahara, Reiko Furuta, Nobuhiro	婦人科	A case of recurrent fallopian tube carcinoma in situ with para-aortic lymph node metastasis	International Cancer Conference Journal. 2013;Jul;2:161-164.

51	Yusuke Horiuchi, Junko Fujisaki, Tomoki Shimiu, Hirotaka Ishikawa, Yasumasa Matsuo, Natsuko Yoshizawa, Takanori Suganuma, Kiyochisa Dan, Masami Omae, Akiyoshi Ishiyama, Toshiaki Hiraawa, Yorimasa Yamamoto, Tomohiro Tsuchida, Etsuo Hoshino, Masahiro Igarashi, Naokai Hiki, Toshiharu Yamaguchi, Toshifusa Nakajima Hiroshi Takahashi	消化器内科	Extensive 0-Iic (undifferentiated carcinoma) lesion around a gastric adenoma: a case report	Clinical Journal of Gastroenterology 2013;Jun;6(3), 221-225
52	Sho Suzuki, Chika Kusano, Natsuko Yoshizawa, Masakatsu Nakamura, Toshiaki Hirasawa, Takuji Gotoda, Fuminori Moriyasu	消化器内科	Long-term release of a malignant ileal obstruction by placement of a colorectal self-expandable metal stent	Clinical Journal of Gastroenterology 2013;Jun;6(3), 202-206
53	Hidetaka Nomura, Kiyoji Okuda, Natsuho Saito, Fumie Fujiyama, Yoshihiro Nakamura, Yoshiki Yamashita, Yoshito Terai, Masahide Ohmichi	婦人科	Mini-laparoscopic surgery versus conventional laparoscopic surgery for patients with endometriosis	Gynecology and Minimally Invasive Therapy. 2013;Aug;2(3)85-88.
54	Suzuki K, Terui Y, Yokoyama M, Ueda K, Nishimura N, Mishima Y, Sakajiri S, Tsuyama N, Takeuchi K, Hatake K.	血液腫瘍科	Prognostic value of high thymidine kinase activity in patients with previously untreated diffuse large B-cell lymphoma treated by rituximab, cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine and prednisolone.	Leuk Lymphoma. 2013 Nov;54(11):2412-7
55	Akiyoshi T, Ueno M, Matsueda K, Konishi T, Fujimoto Y, Nagayama S, Fukunaga Y, Unno T, Kano A, Kuroyanagi H, Oya M, Yamaguchi T, Watanabe T, Muto T.	消化器外科	Selective Lateral Pelvic Lymph Node Dissection in Patients with Advanced Low Rectal Cancer Treated with Preoperative Chemoradiotherapy Based on Pretreatment Imaging.	Annals of Surgical Oncology.2014 Jan;21(1):189-96
56	Arita, J., Ono, Y., Takahashi, M., Inoue, Y., Takahashi, Y., Saiura, A.	消化器外科	Usefulness of contrast-enhanced intraoperative ultrasound in identifying disappearing liver metastases from colorectal carcinoma after chemotherapy	Annals of Surgical Oncology, 2014 Jun;21 Suppl 3:S390-7
57	Fukunaga, Y., Tamegai, Y., Chino, A., Ueno, M., Nagayama, S., Fujimoto, Y., Konishi, T., Igarashi, M.	消化器内科	New technique of en bloc resection of colorectal tumor using laparoscopy and endoscopy cooperatively (laparoscopy and endoscopy cooperative surgery - colorectal)	Diseases of the Colon& Rectum, 2014 Feb;57(2):267-71

58	Kosuga, T., Hiki, N., Nunobe, S., Noma, H., Honda, M., Tanimura, S., Sano, T., Yamaguchi, T.	消化器外科	Feasibility and nutritional impact of laparoscopy-assisted subtotal gastrectomy for early gastric cancer in the upper stomach	Annals of Surgical Oncology, doi: 10.1245/s10434-014-3520-1. Epub 2014 Feb 21.
59	Mine, S., Sano, T., Hiki, N., Yamada, K., Kosuga, T., Nunobe, S., Shigaki, H., Yamaguchi, T.	消化器外科	Thoracic lymph node involvement in adenocarcinoma of the esophagogastric junction and lower esophageal squamous cell carcinoma relative to the location of the proximal end of the tumor	Annals Surgical of Oncology, doi: 10.1245/s10434-014-3548-2. Epub 2014 Feb 15.
60	Miwa, K., Inubushi, M., Wagatsuma, K., Nagao, M., Murata, T., Koyama, M., Koizumi, M., Sasaki, M.	核医学部	FDG uptake heterogeneity evaluated by fractal analysis improves the differential diagnosis of pulmonary nodules	European Journal of Radiology, doi: 10.1016/j.ejrad.2013.12.020. Epub 2013 Dec 27.
61	Nakano, K., Inagaki, L., Tomomatsu, J., Motoi, N., Gokita, T., Ae, K., Tanizawa, T., Shimoji, T., Matsumoto, S., Takahashi, S.	総合腫瘍科	Incidence of pneumothorax in advanced and/or metastatic soft tissue sarcoma patients during pazopanib treatment	Clinical Oncology (R Coll Radiol), doi: 10.1016/j.clon.2014.02.010. Epub 2014 Mar 12.
62	Ono, H., Motoi, N., Nagano, H., Miyauchi, E., Ushijima, M., Matsuura, M., Okumura, S., Nishio, M., Hirose, T., Inase, N., Ishikawa, Y.	病理部	Long noncoding RNA HOTAIR is relevant to cellular proliferation, invasiveness, and clinical relapse in small-cell lung cancer	Cancer Med, 3 (3): 632-42, 2014
63	Osako, T., Iwase, T., Ushijima, M., Horii, R., Fukami, Y., Kimura, K., Matsuura, M., Akiyama, F.	病理部	Incidence and prediction of invasive disease and nodal metastasis in preoperatively diagnosed ductal carcinoma in situ	Cancer Science, doi: 10.1111/cas.12381. Epub 2014 Mar 26.
64	Suenaga, M., Fuse, N., Yamaguchi, T., Yamanaka, Y., Motomura, S., Matsumoto, H., Hamamoto, Y., Mizunuma, N., Doi, T., Hatake, K., Iwasaki, J., Ohtsu, A.	消化器内科	Pharmacokinetics, safety, and efficacy of FOLFIRI plus bevacizumab in Japanese colorectal cancer patients with UGT1A1 gene polymorphisms	The Journal of Clinical Pharmacology: 2014 Jan 2. doi: 10.1002/jcph.246. [Epub ahead of print]
65	Suzuki, K., Terui, Y., Nishimura, N., Ueda, K., Mishima, Y., Sakajiri, S., Yokoyama, M., Aiba, K., Hatake, K.	血液腫瘍科	Rapid progression of anemia related to tumor-lysis syndrome associated with bortezomib treatment in myeloma patients	Japanese Journal of Clinical Oncology, doi: 10.1093/jjco/hyu017. Epub 2014 Mar 23.



66	Suzuki, S., Chino, A., Kishihara, T., Uragami, N., Tamegai, Y., Suganuma, T., Fujisaki, J., Matsuura, M., Itoi, T., Gotoda, T., Igarashi, M., Moriyasu, F.	消化器内科	Risk factors for bleeding after endoscopic submucosal dissection of colorectal neoplasms	World Journal of Gastroenterology, 2014;Feb 21;20(7):1839-45
67	Tanaka, E., Fukunaga, Y., Nakashima, M., Nagasue, Y., Akiyoshi, T., Konishi, T., Nagayama, S., Fujimoto, Y., Ueno, M., Yamaguchi, T.	消化器外科	Laparoscopic Incisionless Stoma Creation for Patients With Colorectal Malignant Stricture	Surgical Laparoscopy Endoscopy & Percutaneous Techniques: 2014 Jan 28. [Epub ahead of print]
68	Yamada, I., Matsuyama, M., Ozaka, M., Inoue, D., Muramatsu, Y., Ishii, H., Junko, U., Ueno, M., Egawa, N., Nakao, H., Mori, M., Matsuo, K., Nishiyama, T., Ohkawa, S., Hosono, S., Wakai, K., Nakamura, K., Tamakoshi, A., Kuruma, S., Nojima, M., Takahashi, M., Shimada, K., Yagyu, K., Kikuchi, S., Lin, Y	消化器内科	Lack of associations between genetic polymorphisms in GSTM1, GSTT1 and GSTP1 and pancreatic cancer risk: a multi-institutional case-control study in Japan	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention, 15 (1): 391-5, 2014
69	Nagasaki, T., Akiyoshi, T., Ueno, M., Fukunaga, Y., Nagayama, S., Fujimoto, Y., Konishi, T., Yamaguchi, T.	消化器外科	Laparoscopic abdominosacral resection for locally advanced primary rectal cancer after treatment with mFOLFOX6 plus bevacizumab, followed by preoperative chemoradiotherapy	Asian Journal of Endoscopic Surgery, 2014 Jan;7(1):52-5
70	Yuasa, T., Urakami, S.	泌尿器科	Kidney cancer: decreased incidence of skeletal-related events in mRCC	Nature Reviews Urology, doi: 10.1038/nrurol.2014.56. Epub 2014 Mar 11.

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 手順書の主な内容： 目的、責務、構成、委員の任命、任期、議長、開催、成立、審議、審議及び確認事項、採決の方法及び審議結果、審査結果報告書の提出、迅速審査、臨床研究倫理審査委員会事務局、条委員会の構成等の公表、規約の改正、規約催促の作成と変更	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・ 規定の主な内容 目的、定義、対象、研究者等の報告すべき事項、利益相反マネジメントの組織、利益相反委員会、利益相反マネジメントの実施手続、罰則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 5 回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 ヘルシンキ宣言、ICH-GCP、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針、利益相反人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（26年度予定）	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各コースごとにプログラムを設け、プログラムに従い研修を進める。各コースプログラムのローテーションでは、選択したコースプログラムに関連する診療科部門を3ヶ月から最大12ヶ月の期間で研修を行う。研修にあたっては、各コースとも、教育責任者1名と指導医を複数名配置し、指導は学会専門医や認定医などの資格を有する者が中心となり、チーム全体での指導が受けられる体制をとっている。

また、各カンファレンスにも参加し、特にがんセンターでの検討に基づく集学的医療を実践する。加えて基礎的ながん研究を行うがん研究所も併設しており、専門の研究者との交流も深い知識を深めてもらう。

2 研修の実績

研修医の人数	111人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
五十嵐 正広	消化器内科	消化器内科部長	37 年	
西尾 誠人	呼吸器内科	呼吸器内科部長	25 年	
伊藤 良則	乳腺内科	乳腺内科部長	33 年	
畠 清彦	血液腫瘍科	血液腫瘍科部長	36 年	
小口 正彦	放射線治療部	放射線治療部長	31 年	
松枝 清	画像診断部	画像診断部長	29 年	
向山 雄人	緩和治療科	緩和治療科部長	32 年	
原田 壮平	感染症科	感染症科部長	13 年	
佐野 武	消化器外科	消化器外科部長	34 年	
奥村 栄	呼吸器外科	呼吸器外科部長	31 年	
岩瀬 拓士	乳腺外科	乳腺外科部長	33 年	
川端 一嘉	頭頸科	頭頸科部長	37 年	
米瀬 淳二	泌尿器科	泌尿器科部長	28 年	
竹島 信宏	婦人科	婦人科部長	31 年	
松本 誠一	整形外科	整形外科部長	37 年	
高橋 俊二	総合腫瘍科	総合腫瘍科部長	31 年	
横田 美幸	麻酔科	麻酔科部長	33 年	
辻 英貴	眼科	眼科部長	16 年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 全国のリンパ浮腫治療に関わる医療者の育成（対象：看護師・理学療法士・作業療法士等） ・研修の期間・実施回数 4月および10月（10日間） ・研修の参加人数 各回18名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	門田 守人	
管理担当者氏名	各管理責任部署の長	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		院長室、各診療科、薬剤部、手術室、看護部、IT推進課、がん登録室	…病院日誌は院長室、各科診療日誌は各診療科、処方せんは薬剤部、看護記録は看護部。他、患者の診療記録は電子カルテ等によるシステム管理。紹介状の原本についてはがん登録室にて保管。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事部	…人事部にて作成、管理。	
	高度の医療の提供の実績	総務課	…先進医療の年度報告をファイル保管。	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	…学術研究委員会の活動の記録（議事録等）を保管。	
	高度の医療の研修の実績	人事部	…人事部にてファイル保管。	
	閲覧実績	各管理責任部署	…開示請求に基づき各管理責任部署が対応。	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事部及びIT推進課	…電子カルテによるシステム管理。	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事部及び薬剤部	…医事システム。但し、調剤数は薬剤システムでデータを管理。	
	第規一則号第	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	…ファイル保管の上、電子カルテにて常時、閲覧可。
	一掲条	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	…医療安全管理委員会の開催記録（議事録等）をファイル保管。
	の十	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	…医療安全職員研修会の開催記録をファイル保管。
制第一	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	…各現場からのIAレポート報告及びその改善のための医療安全管理委員会等での検討内容をファイル保管。	
の確	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	…医療安全管理部にゼネラルリスクマネージャーを、各部署にリスクマネージャーを配置。	
保各	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策部	…感染管理認定看護師を配置。	
の号	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	…医療安全管理部を設置。	
状及	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事部及び相談支援センター	…総合窓口の医事部にて相談を受け、内容により担当部署に振り分けて、各部署にて対応。	
況				
び				
第九				
条の				
第二十				
第一				
項				

--	--	--	--	--

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策部 …ファイル保管の上、電子カルテにて常時、閲覧可。
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策部 …院内感染対策委員会の開催記録（議事録等）をファイル保管。
	十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策部 …院内感染対策研修会の開催記録をファイル保管。
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策部 …各現場からのレポート報告及びその改善のための委員会等での検討内容をファイル保管。
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部 …医薬品情報管理担当者を配置。
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 …医薬品の安全使用のための研修の開催記録をファイル保管。
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 …薬剤部にてファイル保管。
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部 …医薬品情報管理室にて医薬品情報の収集、評価等を実施し、記録をファイル保管。
	二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	麻酔科及び購買施設課 …医療機器安全管理責任者を配置。
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	購買施設課 …医療機器の安全使用のための開催記録をファイル保管。
号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	購買施設課及び各部署 …自主点検及びメーカー等による保守点検記録等をファイル保管。	
に掲げる	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	購買施設課 …購買施設課にて医療機器情報の収集、評価等を実施し、記録をファイル保管。	
体制			
の			
確保			
の			
状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	門田 守人		
閲覧担当者氏名	診療情報管理室 松倉 知美		
閲覧の求めに応じる場所	患者相談窓口及び相談室等		
閲覧の手続の概要			
・患者相談窓口にて閲覧申請の初期対応を実施。申請内容により各記録の担当者へ連絡、閲覧の承認を経た後、申請者へ連絡・閲覧を実施する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延		件
	歯科医師	延		件
	国	延		件
	地方公共団体	延		件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：</li><li>医療安全管理に関する基本的な考え方</li><li>医療安全管理委員会・組織に関する基本的事項</li><li>医療安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>事故報告等の医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針</li><li>患者からの相談への対応に関する基本方針</li><li>本指針の見直しに関する基本方針</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年24回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：</li><li>医療安全管理体制などの実態の把握及び関連資料の整備</li><li>具体的な医療安全対策の審議及びその実現施策の策定</li><li>医療安全教育・予防対策などに関する立案及びその実施</li><li>医療安全基本マニュアルの策定</li><li>医療訴訟に関する業務</li><li>前各号の定めるもののほか医療安全に係わる必要な事項</li><li>医療安全管理委員会規程の改訂</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：</li><li>医薬品安全管理研修会(麻薬取扱について、医療安全における病棟薬剤師の視点)</li><li>全体研修会(実例で考える医療安全)</li><li>人工呼吸器取扱研修会</li><li>除細動器取扱研修会</li><li>謔妄について</li><li>医療安全のためのモニタリングテクニック</li><li>医療安全推進週間全体研修会(医療安全活動の現状報告・多剤耐性アシネトバクター集団発生事例で学んだこと)</li><li>転倒・転落プロジェクト発表会</li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機関内における事故報告等の整備 ( 有・無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：</li><li>当事者・発見者がIAレポートをオンラインシステムで報告する。</li><li>各部署でRMを中心に事例の検討・RCA分析を行う。</li><li>専任RM部会でIA報告をとりまとめ分析・検討し、安全管理部門から各部署へ連絡・指導する。</li><li>各部署および専任RM部会で立案し、医療安全管理委員会で決定する。</li></ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>所属職員： 専任(2)名 兼任(3)名</li><li>活動の主な内容：</li><li>安全管理に関する情報の収集・提供をする</li><li>IAレポートの集計・分析をする</li><li>複数の部署にまたがる問題を分析し、改善策の実施を図る</li></ul>	



- ・有害事象（医療事故）発生時の対応状況に関して、必要な指導と助言を行う
- ・医療安全管理に関する職員研修の企画・運営をする
- ・医療安全管理委員会での資料及び議事録の作成・保存その他庶務を担当する

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：</li><li>・ 院内感染対策に関する基本的考え方</li><li>・ 院内感染対策のための委員会等病院感染対策の組織に関する基本的事項</li><li>・ 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針</li><li>・ 感染症の発生状況に関する基本方針</li><li>・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>・ その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針</li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：</li><li>・ 院内感染防止のための職員研修</li><li>・ 院内感染対策マニュアルの作成および年1回定期的に改訂・更新</li><li>・ 院内感染発生時および発生が疑われる際の対応状況を含め管理者に報告</li><li>・ 委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し見直す</li><li>・ 院内感染に関する情報収集および内外への公表</li><li>・ 院内感染患者の治療・管理・および院内感染の拡大防止のための対策の提言</li><li>・ その他、院内感染およびその防止にかかわるすべての事項</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 21回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：</li><li>・ 新職員研修「院内感染について」</li><li>・ 新規看護師採用者オリエンテーション「感染予防・対策」</li><li>・ ボランティア研修会「感染対策について」</li><li>・ 病院全体研修会「病院内の感染症予防と感染症診療について」</li><li>・ 委託清掃スタッフ対象「病院清掃：感染対策の基本」</li><li>・ 看護樹種対象「看護助手業務における感染対策」</li><li>・ 病院全体研修会「多剤耐性アシネトバクター集団発生事例で学んだこと」</li><li>・ 看護師対象「針刺し防止対策」</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( ☑・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li><li>・ コンサルテーション</li><li>・ 院内ラウンドを行い、感染対策に関する問題点の把握・分析・対策の立案、実施・評価を行う</li><li>・ 感染対策に関する情報提供 ( 感染情報レポート・ICTニュースを作成し、院内ネットワーク掲示板に掲載する )</li><li>・ 院内感染対策マニュアルの整備</li><li>・ 職員の健康管理 ( ウイルス抗体価・ワクチン接種 )</li><li>・ 手洗いの指導</li><li>・ 病院の各部門・部署間の連携を図るための調整を行う</li></ul>	

(様式第6)

### 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	1年 15回
・ 研修の主な内容：抗がん薬と麻薬の取扱い(新入職員研修) 麻薬の取扱法規と適正使用 医療安全における病棟薬剤師の視点 その他：病棟スタッフを対象とした病棟単位での病棟薬剤師による研修会(年1から2回程度)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( 有・無 ) ・ 業務の主な内容： 1. 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成と改訂 ・ 医薬品安全使用のための業務手順書の定期的な見直し(年1回以上) 2. 職員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 ・ 医薬品安全管理研修会の企画立案、実施、指示 3. 医薬品の業務手順書に基づく業務の実施確認 ・ 業務チェックリストによる確認 4. 医薬品の安全使用のための情報収集、伝達 ・ PMDAメディアナビ等での情報収集 ・ 医薬品情報の収集とDIニュース等の情報発信の企画立案 ・ Cancer Board等での対面での情報伝達指示 5. その他医薬品の安全確保を目的とした改善策の実施 ・ 麻薬、ハイリスク薬、病棟定数等の保管管理の相談 ・ 抗がん薬レジメンの登録、変更の確認 ・ 医療安全委員会、感染対策委員会、薬事審査委員会、化学療法委員会へ出席	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ PMDAメディアナビに登録、PMDA医薬品医療機器情報提供ホームページにて最新添付文書等の情報を確認している ・ 学会誌、業界紙の定期購読 ・ DI担当者の配置 ・ MRとの面談時間の設定 ・ 新規抗がん薬の導入には、医師、看護師、薬剤師等による新薬導入チームを編成し、導入の問題点、チェック項目、同意説明文書等を事前に検討、作成し情報を共有して安全な導入を実施している。 ・ 外来持参薬管理センターを立ち上げ(一部診療科のみ)術前中止薬を薬剤師が外来時に事前にチェックしている	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 13回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：</li><li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置について</li><li>・ 人工呼吸器について</li><li>・ 血液浄化装置について</li><li>・ 除細動装置について</li><li>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置について</li><li>・ 診療用放射線照射装置について</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( 有・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：</li></ul> 委託業者による点検及び当院臨床工学技士による自主点検の併用 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 人工心肺装置及び補助循環装置</li><li>・ 人工呼吸器</li><li>・ 血液浄化装置</li><li>・ 除細動装置</li><li>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置</li><li>・ 診療用放射線照射装置</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li></ul> 安全情報についてメーカーの案内や新聞記事などで収集し、当院に該当している案件に関しては医療機器安全管理委員会で検討し、各現場に周知していただいている。また、院内で起きたIA事例はデスクネッツを活用し、医療安全通信に掲載して全体に発信、注意喚起を行っている。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 機器使用部署毎に研修説明会を行い、安全な捜査のための知識習得を図っている。</li></ul>	